

経営比較分析表（令和3年度決算）

千葉県鴨川市 国保病院

| 法適用区分 | 業種名・事業名 | 病院区分 | 類似区分 | 管理者の情報 |
|--------|---------|---------|--------------|------------|
| 当然財務 | 病院事業 | 一般病院 | 50床以上～100床未満 | 非設置 |
| 経営形態 | 診療科数 | DPC対象病院 | 特殊診療機能 ※1 | 指定病院の状況 ※2 |
| 直営 | 14 | - | ド訓 | 救輪 |
| 人口（人） | 建物面積（㎡） | 不採算地区病院 | 不採算地区中核病院 | 看護配置 |
| 31,842 | 5,112 | 第2種該当 | - | 13：1 |

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

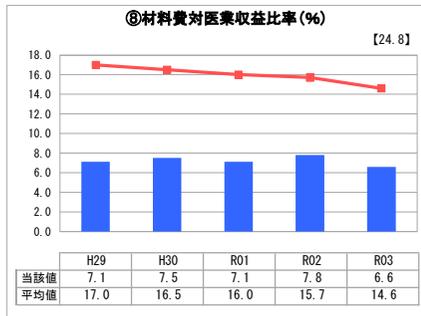
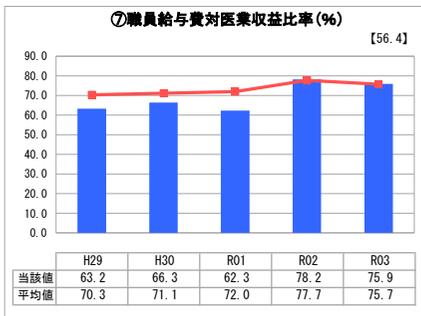
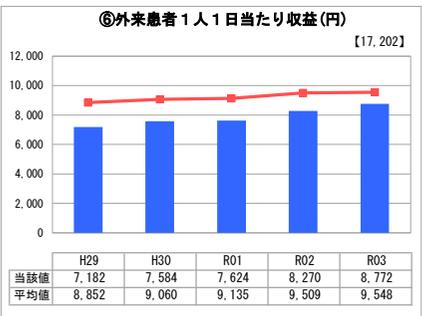
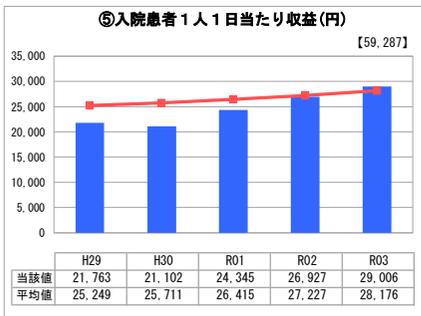
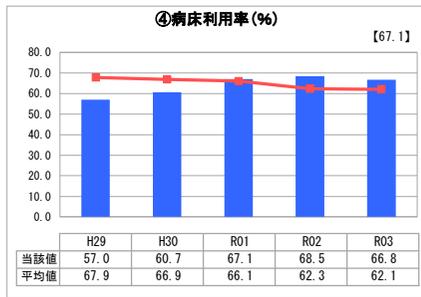
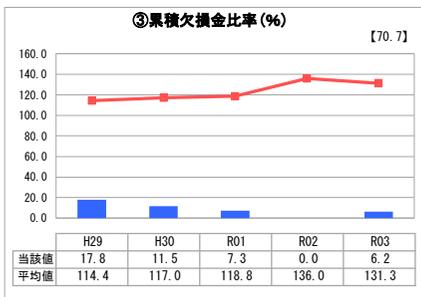
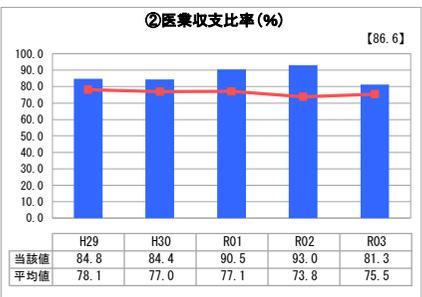
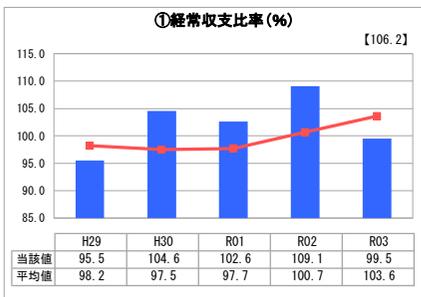
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

| 許可病床（一般） | 許可病床（療養） | 許可病床（結核） |
|------------|------------|---------------|
| 52 | 18 | - |
| 許可病床（精神） | 許可病床（感染症） | 許可病床（合計） |
| - | - | 70 |
| 最大使用病床（一般） | 最大使用病床（療養） | 最大使用病床（一般+療養） |
| 41 | 18 | 59 |

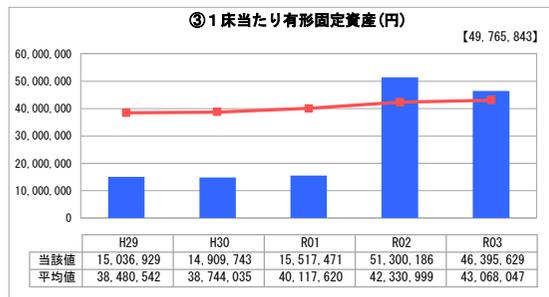
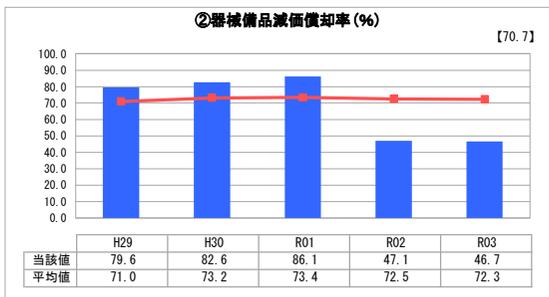
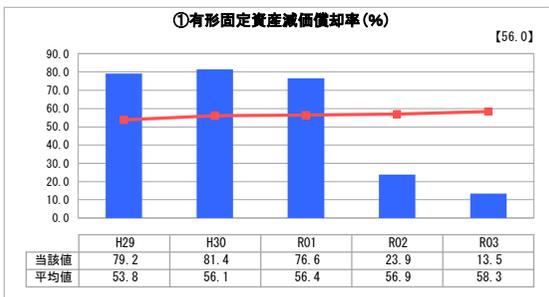
グラフ凡例

- 当該病院（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

| 再編・ネットワーク化 | 地方独立行政法人化 | 指定管理者制度導入 |
|------------|-----------|-----------|
| - | - | - |

I 地域において担っている役割

当院は、市の中心から西方に約10km、国道410号線と主要地方道鴨川保田線が交差する交通の要所に位置しているが、中山間地域のため集落が山間地に点在し、高齢化が進んでいることから、高齢者等の交通弱者に対する交通手段の確保が必要な地域となっている。

また、当院から10km圏内に医療機関はなく、隣接する君津市、南房総市、館南町を含む中山間地域唯一の二次救急指定医療機関（千葉県救急告示病院）となっていること、鴨川市地域防災計画において災害時の応急救援活動における後方医療施設としての役割等を担っていることから、救急医療を含め引き続き災害時医療における役割を担っていく必要がある。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、入院収益及び外来収益等が増加したものの、前年度に完成した新病院に係る固定資産減価償却費等の増加により前年度比9.6ポイント減となり、健全経営の水準とされる100%を下回った。

② 医業収支比率は、入院収益、外来収益及び新型コロナウイルスワクチン接種により公衆衛生活動収益が増加したものの、新病院に係る固定資産減価償却費等の増加により前年度比11.9ポイント減少した。

③ 累積欠損金比率は、新病院に係る減価償却費及び旧病院の取壊し等による除却損を特別損失として計上したことにより前年度比増したため、6.2ポイント増加した。

④ 病床利用率は、入院患者数が前年度と比較して446人減少したことから、1.7ポイント減少し66.8%となった。

⑤ 入院患者1人1日当たり収益は、入院単価の高い地域包括ケア病床へ全床切り替わったこと、また、新型コロナウィルス感染症から回復した後、引き続き入院管理が必要な患者を受け入れたことにより加算がついた点が主要因となり入院収益が増加したため、前年度と比較して50円増加した。

⑥ 外来患者1人1日当たり収益は、眼科の手術件数及び在宅診療件数が増えたことにより、前年度と比較して50円増加した。

⑦ 職員給与対医業収益比率は、前年度と比較して職員数が増加したことにより給与は増加したものの、医業収益の増加が上回ったため前年度比2.3ポイント減となった。

⑧ 材料費対医業収益比率は、外料がないことなどから低価格（低が利率）がなく、選好も無いことから比較的低水準となっている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、令和3年度に旧病院を取り壊し、駐車場を整備したため、旧病院の除却を行ったことから前年度と比較して10.4ポイント減少した。

② 器械備品減価償却率は、眼科診察日数拡大のため眼科機器を購入したこと等から前年度と比較して0.4ポイント減少した。

③ 1床当たり有形固定資産は、令和3年度から新病院及び医療用機械等の減価償却費の計上により前年度と比較して4,904,557円減少した。

全体総括

収入においては、眼科診察日数の拡大に伴う外来収益の増加（対前年度比6,906千円）、入院患者数が減少（対前年度比446人）したものの、新型コロナウィルス感染症から回復した後、引き続き入院管理が必要な患者を受け入れたことにより入院収益が増加（対前年度比23,472千円）した。また、新型コロナウィルスワクチン接種により公衆衛生活動収益（対前年度比63,623千円）及びそれに関連する交付金（対前年度比40,219千円）が増加した。

費用においては、病院整備の向上を図るために看護師を増加したこと等から職員給与が増加（対前年度比105,906千円）したこと、令和3年度に完成した新病院等に係る減価償却費（対前年度比168,645千円）が増加したこと等から、事業収益より事業費用が上回ったため当期純損失91,349千円を計上した。

なお、建設事業として、令和3年度に旧病院の取り壊し及び駐車場造成工事を実施し、特別損失に旧病院の除却損等を計上した。

今後は、病床利用率の向上による入院収益及び訪問診療等を増やすなど外来収益の確保を図りながら、一般会計からの繰入金を活用し病院経営の基盤を強化していく必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。